

概要	施設所在地・所管課	日進市栄4丁目1002-2	所管課:子育て支援課
	設置目的	施設管理運営事業、地域子育て支援拠点事業、子育て援助活動支援事業、利用者支援事業の4事業の運営	
	指定期間・選定方法	平成29年4月1日 ~ 令和3年3月31日	選定方法: 公募
	指定管理者	所在地 日進市岩藤町陸見63番地	団体名・代表者 NPO法人ファミリーステーションRin 代表理事 小川 悦子

	平成30年度	令和元年度	前年度比
指定管理料(市委託料)	28,827千円	28,857千円	100.1%
利用料金収入	0千円	0千円	
施設利用者数	26,833人	24,441人	91.1%

分類	評価項目	評価基準	評価点 (5~1点)
共通評価事項	1 法令等遵守	法令、条例、業務仕様書等に基づき、必要な施設の維持管理、点検、報告等が適切に行われている。	4 点
	2 清掃業務	業務仕様書に基づき、清掃業務・維持管理が、適切に行われている。	4 点
	3 保安警備業務	業務仕様書に基づき、保安・警備業務が、適切に行われている。	4 点
	4 業務の委託	第三者への委託の内容は、事前に市の承認を受けており、適切に行われている。	4 点
	5 業務記録	業務日誌及び点検、修繕等の履歴を適切に整備し、保管している。	4 点
	6 職員の配置	必要な資格、経験を有するものなど、事業計画書に即し、人員を過不足無く配置している。また、従業員の労働条件、賃金水準が、適正に確保されている。	4 点
	7 職員研修	施設の設置目的達成のために必要な研修・教育が、適切に行われている。	4 点
	8 個人情報保護	利用者の個人情報を保護するための対策を適切に講じられている。	4 点
	9 緊急対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が確保され、また、マニュアルが整備されている。	4 点
	10 施設利用の状況	利用者数や施設の稼働率は、前年度の実績等に比べて適切、妥当な水準にある。	4 点
	11 利用促進業務	施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動が適切に行われ、その効果が認められる。	4 点
	12 利用者支援業務	施設利用者が円滑に活動できるように、必要な指導・助言が適切に行われている。	5 点
	13 モニタリング	利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組が適切に行われている。また、事業報告書等による市への報告・説明が、適切に行われている。	4 点
	14 自主事業	施設の目的に沿った自主事業が、適切に行われている。	4 点
	15 収支の状況	利用料収入は、前年度の実績等に比べて適切、妥当な水準にある。	4 点
	16 予算執行	施設の事業収支は、適切な手続きに沿って執行されている。	4 点
特記事項	標準点(4点)を上回る評価をした項目と理由	【12利用者支援業務】 昨年度に研修で実施したロジックモデル(事業や組織が最終的に目指す変化・効果の実現に向けた事業の設計図)の思考手法を活用し、にしん子育て総合支援センターで行っている事業や、他の機関が行っている事業も含め、要支援者の将来展望を考慮しつつ、多方面から支援の提案が行えていたため。	
	標準点(4点)を下回る評価をした項目と理由		
	その他特記事項	新たな試みとして、室内遊びだけでなく、近隣の公園を活用して外遊びの講座を行ったり、防犯体制の強化のため、愛知警察署から講師を招き訓練を実施したりする等の取り組みがなされていた。	
	(施設所管課)改善に向けた助言等の内容	年度末に新型コロナウイルス感染症の拡大があり、にしん子育て支援センターにおいてもイベントの中止など、通常通り運営することが、困難な状況が見受けられた。 令和元年度は、急速な新型コロナウイルス感染症拡大により対応が後手に回ることもあったが、今後も、このような事態が起こることを想定して、今回の事象を検証し、次に続くような、オンラインの活用やSNSの活用など、対面や電話だけでなく、多様なアプローチができるよう事業展開を検討されたい。	

個別評価事項 (設置目的に応じた内容)	1 相談・支援業務	施設の設置目的を踏まえ、相談業務の体制の整備と実施及び必要な支援に取り組んでいる。	5	点	
	2 情報の受発信	市民自治活動に関する情報の収集や発信に努めている。	4	点	
	3 地域との連携	地域や関係団体等との連携や協働の推進に努めている。	4	点	
	4 人材育成等	市民自治活動を担う人材育成に取り組んでいる。	4	点	
	特記事項	<p>標準点(4点)を上回る評価をした項目と理由</p> <p>【1 相談・支援業務】 要支援者の支援にあたり、要支援者が直近に求める支援を提案するだけでなく、他機関とも連携し、要支援者の将来展望を考慮しつつ、多方面から支援の提案を行い、必要な支援につなげることができていたため。</p> <p>標準点(4点)を下回る評価をした項目と理由</p> <p>その他特記事項</p> <p>ファミリー・サポート・センター事業や子育て世帯包括支援センターの運営方法について、実務経験に則して行政に提案を行うなどなされていた。</p> <p>(施設所管課)改善に向けた助言等の内容</p> <p>引き続き、それぞれの支援である点を線でつなぐように広がりをもった支援を継続し、子育て世帯がより安心して将来を見通せるように業務にあたられたい。 また、市等が実施する子育て支援の事業を時系列で一覧表にすることで、相談業務に幅が広がるのが想定されることから、「別冊ふあまっぷ」への掲載を進められたい。</p>			
総評	課題点に対する取組状況 ※昨年度指摘した課題は解消されたか。	<p>今までは、妊娠期の市民に対する認知度が低く、子育て総合支援センターを活用しないままに、保育園等に就園することが少なからず見受けられたが、今年度は、妊娠中の方向けの講座(マタニティひろば)を実施し、出産後に利用につながった事例が確認できた。また、妊娠中の家庭の交流を目的とした自主事業(プレママ・プレパパひろば)も開催していることから、今後の利用者の増加動向を注視したい。 広報・啓発の面では、保健センターに出向きにしん子育て総合支援センターや同施設が発行する「ふあまっぷ」の周知をしたり、市内の大型商業施設で開催された子育て関連イベントに参加し、周知を図るなど、外に出て行って、積極的にPRがなされていた。</p>	合計	82	点
	一年間の総評 ※点数では表すことができない、指定管理者の管理運営業務における創意工夫や改善等を幅広く記載する。	<p>昨年度に修得したロジックモデルの思考を活かし、必要としている人へ必要としている支援が届くように、ひよこテラスを窓口とした支援センターの相談体制をスタッフ間で共有し、アドバイザー(ファミサポ事業)、子育て支援コーディネーター(利用者支援事業)、保育士(地域子育て支援拠点事業)が、それぞれ役割を認識することで、チームとして支援する方法が定着してきたことが見受けられた。 また、広報・啓発面では、従来からの子育て世帯にとどまらず、妊娠期からPRを行っていくことで、にしん子育て総合支援センターの利用促進を図るとともに、上述同様に、必要な人に必要な支援ができるようなきっかけづくりの足掛かりとなるような取り組みが見受けられた。 今後に向けては、これまでのにしん子育て総合支援センターでの取り組みを見つめ直し、年度末に発生した新型コロナウイルス感染症拡大に伴う業務の継続性の確保策など、新たな課題に柔軟に取り組めるよう体制強化に努められたい。</p>	総合判定	A	

判定基準	5点…期待する水準を大幅に満たし、優良な管理を行っている。
	4点【標準点】…期待する水準を満たし、良好な管理を行っている。
	3点…基本協定書等の内容は遵守されているが、これを上回る部分がなく課題の解消が必要な部分がある。
	2点…基本協定書等の内容を一部下回るものがあり、改善に対する課題がある。
	1点…管理運営が適切に行われたとは認められず、抜本的な改善を要する。

総合評価基準	S【優良】合計85点以上…期待する水準を大幅に満たし、優良な管理を行っている。
	A【良好】合計70点～84点…期待する水準を満たし、良好な管理を行っている。
	B【適正】合計60点～69点…一部に課題の解消が必要な部分があるが、概ね妥当である。
	C【改善】合計50点～59点…期待する水準を満たす状況になく、改善が必要である。
	D【抜本的改善】合計49点以下…期待する水準を大幅に満たしておらず、抜本的な改善が必要である。